

大阪上本町駅(近鉄難波線・大阪線)②

大塩平八郎生存説と織田作之助の遺言

谷町九丁目駅(地下鉄谷町線・千日前線)

「大阪あそ歩マップ集」
その3 No.132

近鉄大阪上本町駅

①大塩平八郎生存説碑文(龍淵寺)

大塩平八郎父子の逃亡を手助けしたという秋篠昭足の墓があります。碑文には、「秋篠氏は平八郎の縁者で、天保8年の乱の謀議にも参加し、乱の後、平八郎および其の徒12人とともに河内に逃れ、その後、大塩父子ほか5人は海伝いに天草島に潜伏後、清国に逃れ、大塩父子は更にヨーロッパに渡った」とあります。大塩生存説の有力な証拠となっています。

②織田作之助墓(楞嚴寺)

オダサクの名で親しまれる作家・織田作之助は生玉に生まれ、上本町、空堀、道頓堀境界で青春時代を送りました。戦後は坂口安吾、太宰治と並ぶ、新戯作派・無頼派の作家として時代の寵児となりましたが、結核のため、33歳の若さでこの世を去りました。楞嚴寺にある墓にはオダサクの伝説的な遺言「ロマンを発見した」が刻まれています。

③梅川・忠兵衛墓

梅川と忠兵衛は、近松門左衛門の名作『冥土の飛脚』のモデルです。淡路町の飛脚問屋の忠兵衛は、新町の遊女・梅川と恋仲になり、梅川を身請けするために預かった公金に手をつけるという大罪を犯します。2人は忠兵衛の故郷、新口村へ逃げますが、そこで捕われの身に。忠兵衛は処刑され、梅川は近江で懺悔の日々を送りました。2人の墓は死後150年ほど経った安政年間(1854~60)に建てられました。

④高津宮跡(高津高校)

当地境界が仁徳天皇の高津宮があった場所という伝承に基づき(遺構などは発見されていません)、明治32年(1899)、仁徳天皇1500年祭を記念して建立されたものです。その後、道路拡張工事のため、現在地に移転しています。



⑤味原池碑

『摂津名所図会』にも記載されている浪花名所で、「味原池、小橋村の西にあり。一名比賣許曾神の御影池という。土人溜池とよぶ」とあります。比賣許曾神社

の祭神・下照比売命したてるひめのみことが天の磐船に乗って池に天降ったという伝説があります。花見の名所としても有名でしたが、大正8年(1919)に埋め立てられてしまいました。石碑は区画整理をした際の記念碑です。

⑥産湯稻荷神社

比賣許曾神社の旧境内地です。神社が石山合戦で焼かれて現在の東小橋に遷座した後、境外摂社となりました。当地の開拓神・大小橋命は藤原氏の祖先神とされ、味原郷に誕生、境内の玉井を汲んで産湯に用いたので、この地を産湯といいます。明治の後半までは大阪屈指の大桃林があったといえます。



近鉄大阪上本町駅

